

## 2 研究の実際

### ア 小学校自閉症・情緒障害特別支援学級(1年)の取組

自閉症・情緒障害特別支援学級に在籍する小学校1年生の児童に対して、特別支援学級担任が、生活面や学習面など教育活動全体を通して合理的配慮を提供した事例である。

対象児童は、友達と関わることが大好きで、誰とでも親しく接することができるが、相手の気持ちを考えずに行動してしまうことがある。また、初めて経験することに対して不安を感じやすい。さらに、疲れやすいため、長時間の活動では休憩が必要である。

そこで、対象児童が安心して学校生活を送ることができるように、活動に見通しを持たせたり、活動量を調整したりするなどの学習内容や方法を工夫するなどの配慮をした。

#### P(調整・決定)シート

#### 1 意思の表明

本人	・みんなと楽しく過ごしたい。疲れたときに、休憩する場所が欲しい。
保護者	・本人のペースで過ごしてほしい。友達と仲良くしてほしい。
引継ぎ等	・疲れやすいため、適宜休憩を取りながら活動に参加していた。 ・友達など相手の気持ちを考えることが苦手である。 ・保育所では、自分が思ったような結果にならないと大きな声を出すことがあった。

#### 2 調整

##### 実態把握

学習面	・平仮名は、おおむね読むことができる。書くときは、すぐに文字を想起することが難しいことがある。書くスピードは周りの児童と比べると遅い。 ・数に関しては、繰り上がり、繰り下がりのない足し算や引き算ができる。 ・個別に活動の流れを提示すると、落ち着いて取り組むことができる。 ・教師が全体に話していることも、自分だけに話されているように捉えることがある。 ・注意を持続して話を聞くことが難しい。
生活面	・感覚の過敏さがある（聴覚、味覚など）。 ・勝ち負けや順番などにこだわりが見られる。 ・初めて経験することに対して、不安を感じやすい。 ・疲れると、30分から1時間程度の休憩（仮眠）をしている。
人との関わり	・友達と関わることが大好きである。誰に対しても親しく接する。 ・相手の立場を意識した関わりが難しく、教師に対して身体接触を求めてくることもある。 ・相手の気持ちを考えることが苦手で、その場に応じた関わりをすることが難しいことがある。

<p>その他 (生育歴・ 検査等)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自閉スペクトラム症、注意欠如多動症の診断を受けている。</li> <li>・WISC-IVでは、境界の域にある。</li> </ul>
-------------------------------	---

**検 討**

<p><b>【時 期】</b> 3月下旬</p> <p><b>【参加者】</b> 特別支援学級担任（特別支援教育コーディネーター）、校長、保育所の担任</p> <p><b>【内 容】</b> 保育所では、担任の指示だけでは学習内容や活動内容を理解することが難しく、周りの友達の様子を見たり、支援の先生の手助けを受けたりしながら、活動に参加している。また、疲れやすく、適宜休憩をしていた。</p> <p>そこで、対象児童が、安心して小学校生活を送ることができる状況を作る必要があると考え、以下のような支援について検討した。</p> <p>①具体物や写真、イラストなどを用いて活動の内容や順番を示す。</p> <p>②特別支援学級担任か特別支援教育支援員がそばにいて、指示の補足をしたり、作業の手伝いをしたりする。</p> <p>③活動に取り組む時間や内容を調節する。</p> <p>④交流学級の座席は、後ろの入口付近にし、特別支援学級を適宜利用できるようにする。</p>
--

**合意形成**

<p><b>【時 期】</b> 4月下旬 家庭訪問</p> <p><b>【参加者】</b> 保護者、特別支援学級担任、交流学級担任</p> <p><b>【内 容】</b> 検討した①～④支援内容を保護者に提案した。上記の合理的配慮を提供し、夏季休業中に評価、見直しをする。</p>
--

**3 決 定**

**長期目標**

- ・活動内容を理解し、安心して学校生活を送ることができる。

<p><b>①教育内容・教育方法</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・具体物や写真、イラストなどを用いて活動の内容や順番を示す。</li> <li>・活動に取り組む時間や内容を調節する。</li> <li>・特別支援学級を適宜利用できるように交流学級の座席は、後ろの入口付近に設ける。</li> </ul>	<p><b>②支援体制</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援学級担任か特別支援教育支援員がそばにいて、指示の補足をしたり、作業の手伝いをしたりする。</li> </ul>	<p><b>③施設・設備</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・疲れたときや情緒が不安定になったときに、休憩できる場所を確保する。</li> </ul>
---	---	---

※決定した内容は、個別の教育支援計画及び個別の指導計画、合理的配慮シートに明記します。

**\* <合理的配慮：3 観点11項目> \* 該当する項目に○を付けて下さい。**

①-1 教育内容

- ( ) 学習上又は生活上の困難を改善・克服
- ( ) 学習内容の変更・調整

①-2 教育方法

- ( ) 情報・コミュニケーション及び教材の配慮
- ( ) 学習機会や体験の確保
- ( ) 心理面・健康面の配慮

② 支援体制

- ( ) 専門性のある指導体制の整備
- ( ) 幼児児童生徒、教職員、保護者、地域の理解・啓発
- ( ) 災害時等の支援体制の整備

③ 施設・設備

- ( ) 校内環境のバリアフリー化
- ( ) 発達、障害の状態及び特性等に応じた指導ができる施設・設備
- ( ) 災害時等への対応に必要な施設・設備

次回の検討予定日(12月)

## D(提供)-1シート

## 長期目標

活動内容を理解し、安心して学校生活を送ることができる。

## 決定した合理的配慮

- ・ 具体物や写真、イラストなどを用いて活動の内容や順番を示す。
- ・ 活動に取り組む時間や内容を調節する。
- ・ 特別支援学級を適宜利用できるように、交流学級の座席は、後ろの入口付近に設ける。
- ・ 特別支援学級担任か特別支援教育支援員がそばにいて、指示の補足をしたり、作業の手伝いをしたりする。
- ・ 疲れたときや情緒が不安定になったときに、休憩できる場所を確保する。

## 実際の指導場面における合理的配慮の提供について

## ①教育内容・方法

場面	対象児童の目標	内容 ( )は主な支援者
学習面	・ 活動に見通しを持ち、落ち着いて参加する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動前に、活動内容や順番を示す。 (特別支援学級担任、交流学級担任)</li> <li>・ 書くときの参考となる平仮名の50音表を準備しておく。 (交流学級担任、特別支援学級担任)</li> <li>・ ワークシート等を用いるなど、書く量を調整する。 (特別支援学級担任、交流学級担任)</li> <li>・ 家庭学習の量を調整する。 (特別支援学級担任)</li> <li>・ 交流学級では、後ろの入口付近に座席を設ける。 (特別支援学級担任、交流学級担任)</li> <li>・ 疲れたとき等は、休憩してもよいことを適宜伝える。 (特別支援学級担任、交流学級担任)</li> </ul>
生活面 (朝の会)	・ 1日の活動に見通しを持つ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 朝の会のときに、その日の時間割と活動場所について文字やイラスト等のカードを用いて説明する。 (特別支援学級担任)</li> </ul>
(休み時間)	・ 落ち着いて休み時間を過ごす。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 休み時間にしなければいけないこと(トイレ、水分補給等)と、してよいことを整理して提示する。 (特別支援学級担任)</li> </ul>

行事等 (運動会など)	・行事に参加する。	・見通しを持って参加できるように、練習や準備の段階から、本人用のプログラムを用意しておく。(特別支援学級担任) ・参加が難しいときは、見学ができるように関係者と調整しておく。(特別支援学級担任、特別支援教育支援員)
----------------	-----------	--

## ②支援体制

項目	時期	内容
職員研修	5月上旬	・職員会議で学習や生活の様子を伝えたり、運動会に向けての手立ての共通理解を図ったりする。
	8月下旬	・講師を招き、合理的配慮や基礎的環境整備、インクルーシブ教育についての具体的な内容について理解する研修を行う。
外部（医療）との連携	6月下旬	・障害児等療育支援事業（本県における関係療育機関等に対する療育技術支援等）を利用し、受診している医療機関より検査結果の解釈の仕方や実際に行っている支援について助言をもらう。
	随時	・対象児童の様子（服薬も含む）などの情報交換を行う。

## ③施設設備

項目	時期	内容
休憩できる場所の確保	4月上旬	・疲れたときや情緒が不安定になったときに、休憩できる場所を確保する。

## D(提供)-2シート

## 合理的配慮の実際

## 1 合理的配慮の提供場面

道徳 主題名 いつも正直に 1 - (4) 正直・明朗  
資料名 「どんぐり」(一部改作) (東京書籍)

## 2 本時の目標

○慌てて嘘をつき、胸がドキドキした主人公の気持ちを考えることを通して、嘘をついたりごまかしたりしないで、素直な明るい気持ちで生活しようとする心情を養う。

## 3 合理的配慮を取り入れた本時の授業について

この時期の児童は、自分に都合が悪くなると、言い訳をしたり、ごまかしたりすることがある。嘘をついたり、ごまかしたりしないで、素直な明るい心で生活しようとする心情を養うことが必要である。

本学級の児童は、学校にも慣れ、元気で明るい生活を送っている。学習や行事等では積極的に活動する姿が見られる。しかし、全体的に語彙が少なく、心情を読み取ったり考えたことを表現したりすることが難しい児童が多い。自分の言葉で考えをまとめて発表する児童は数名の決まった児童である。

対象児童は、人との関わりが好きで、教科や活動内容に応じて交流学級の学習にも参加している。しかし、相手の気持ちを読み取ることや想像することが難しく、周りに合わせて活動することが苦手である。また、自分の考えを書くことも苦手である。

そこで、学級全体に対しては、気持ちを考えるヒントとなるように、表情を描いた「気持ちカード」を全員に持たせるようにした。「気持ちカード」を使って気持ちを読み取ったり表現したりする練習を普段の様々な学習活動の場面で取り入れ、本時でも、主人公の気持ちを考える際に使用したい。また、動作化や役割演技を取り入れて、各場面における登場人物の心情にも気付かせたい。

対象児童に対しては、授業をTTの指導形態にし、きめ細やかな指導ができるようにする。授業の前は、特別支援学級担任(T2)が学習活動の流れを示した紙を対象児童に見せて、授業に見通しを持たせる。授業中は、自分が思ったことをすぐに言葉にしてしまうことがあるため、特別支援学級担任(T2)がそばにいて、対象児童の思いを聞いたり、発表のタイミングを教えたりする。書く活動では、ワークシートを用意し、選択肢などを設けて書く量を軽減するように工夫する。また、疲れた様子が見られたときは、隣の特別支援学級に場所を移動し、特別支援学級担任と学習を行うようにする。

## 4 対象児童へ提供する主な合理的配慮

T1：交流学級担任 T2：特別支援学級担任

提供する合理的配慮	( )は主な支援者
・活動の内容や順番が分かるように、各場面のイラストを用意したり、活動の流れを紙に示したりする。(T2)	
・指示の補足や作業の手伝いなどをする。(T2)	
・書く量を軽減するために、選択肢を設けたり、記入する内容を絞ったりしたワークシートを準備する。(T2、T1)	
・状況に応じて特別支援学級を利用することができるように、交流学級の座席は、後ろの入口付近に設ける。(T1、T2)	

5 展 開

(◎合理的配慮)

担任の所感

対象児童

学習活動	教師の働き掛け	取組の様子
<p>【授業前】</p> 	<p>◎特別支援学級で、授業内容と流れについて知らせた。(T2)</p> <p>◎学習のまとめは、特別支援学級で行うことも事前に伝えた。(T2)</p> <p>◎座席は、T2が対象児童に関わりやすく、対象児童が特別支援学級を利用しやすい教室後方の入口付近に設けた。(T1、T2)</p> <p>・気持ちカードを普段から手元に持たせたり掲示をしたりして、自分や友達の気持ちを考えさせる手助けとした。</p> 	<p>授業の流れを示したことで、見通しを持つことができ、授業開始時は落ち着いた様子で参加していました。</p> <p>継続して取り組むことで、その日の調子や気持ち等を気持ちカードで表現できるようになってきました。</p> <p>はい、元気です。</p>
<p>1 どんぐり拾いをしたことを思い出す。</p> <p>2 本時のめあてを知る。</p>	<p>・どんぐり拾いをしたことを思い出しやすいように、電子黒板で画像を掲示した。</p> <p>◎対象児童が写った画像も準備して見ることができるようにした。(T1、T2)</p>	<p>画像を見せたことで、どんぐり拾いのことを思い出し、授業への興味・関心を高めることができました。対象児童は、自分の写真が出てくるのを楽しみにしていました。</p>
<p>3 資料を聞いて話し合う。</p> <p>①どんぐりを拾っているときの気持ちを考える。</p> <p>②帰りが遅くなった訳を聞かれ、嘘をついたときの気持ちを考える。</p>	<p>・場面を理解しやすいように、発問ごとに資料を分断して進めた。</p> <p>・夢中で拾っているときの気持ちを、動作化をすることで気付かせた。</p>   <p>・嘘をついたときの気持ちを気持ちカードの中から選ばせ、考えさせた。</p>  	<p>動作化を取り入れることで、拾ったときの気持ちを体験させることができました。また、活動内容に変化が生じ、子供たちの集中力を維持することができました。</p> <p>み〜つけた！</p> <p>どんな気持ちで嘘をついたのか、特別支援学級担任と一緒に考えることで主人公の気持ちや表情を想像することができました。</p> <p>こんな顔かな？</p>

③どんぐりを落として、また嘘をついたときの気持ちを考える。

- ・嘘を重ねたことに注目させた。
- ・児童が持っている気持ちカードと同じカードを用意し、場面ごとに、気持ちカードの大きさや枚数の違いを基に、1回目と2回目のドキドキについて考えさせ、嫌な気持ちが強くなっていることに気付かせた。



◎児童が発言したい内容をその都度聞くようにした。(T 2)

◎みんなの前で発言できるタイミングを児童に知らせた。(T 2)

- ・嘘をついてしまった後の主人公の行動を考えさせ、正直に謝ることの良さに気付かせた。



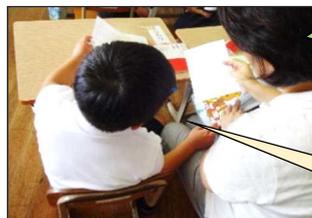
④自分だったらこの後、どうするか考える。  
(役割演技)  
ペア交流  
↓  
全体交流

- ・自分の考えを持つために友達と役割演技をさせて、気持ちに気付くようにした。(T 1、T 2)

◎T 2とペアになり、主人公の気持ちを一緒に考えた。(T 2)



◎授業前に確認した授業内容の流れの紙を提示し、まとめの時間は特別支援学級の教室で行うことを確認した。(T 2)



対象児童は、黒板の挿絵や気持ちカードを見て、主人公がまた嘘をついてしまったことに気付くことができました。

対象児童は、実際に主人公の台詞を言うことで、主人公の気持ちに気付くことができるようになりました。

ごめんね、本当は嘘だったんだよ。

授業の流れを示した紙を見せると、自分から特別支援学級に移動することができました。

次は、特別支援学級に行って勉強するんだね。

【特別支援学級】

4 今日の学習を  
まとめる。

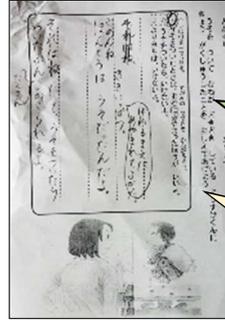
◎特別支援学級に移動し、  
交流学級でがんばったこ  
とを認めた。(T 2)



静かな環境では、落ち着い  
て学習することができま  
した。主人公の気持ちにも  
気付くことができました。

◎まとめでは、書く量を軽減  
するためにワークシートを  
用意した。(T 1、T 2)

◎教師が対象児童に質問紙な  
がら考えを引き出すよう  
にした。



対象児童は、教師の質問に  
答えることで、自分の考え  
を持つことができました。

「ごめんね、本当は、嘘だ  
ったんだよ」って言ったら  
いいよ。

**D(提供)-3シート**

**合理的配慮の具体例**

場 面	学習面	聴覚の過敏さに対する対応
<p>合理的配慮の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・聴覚の過敏さに対応するため、イヤーマフを使用する。</li> </ul>		
<div data-bbox="240 544 616 824">  </div> <p data-bbox="220 831 628 909">【イヤーマフを使用して鍵盤ハーモニカの練習をする児童】</p> <div data-bbox="240 954 616 1182">  </div> <p data-bbox="220 1189 639 1267">【イヤーマフを使用してお楽しみ会に参加する児童】</p>	<p data-bbox="667 539 1445 663">対象児童は、音に対する過敏さがあり、音楽の授業や集団活動などで苦痛を感じ、活動に参加することが難しいことが多かった。</p> <p data-bbox="667 674 1445 976">そこで、保護者と相談し、イヤーマフの使用について検討した。専門機関から借用したイヤーマフを使用して音楽の授業に参加したところ、音が遮断されたことで、穏やかに活動に取り組むことができた。保護者にこの様子を伝え、対象児童用のイヤーマフを購入することになった。購入したイヤーマフは、いつでも使えるように教室内に保管するようにした。</p> <p data-bbox="667 987 1050 1245">その結果、交流学級でのお楽しみ会や音楽の時間、運動会の練習など、自分で必要と感じたときに、自分で使用し、機嫌よく活動に参加する姿が見られるようになった。</p> <div data-bbox="1075 943 1433 1196">  </div> <p data-bbox="1090 1211 1430 1245">【運動会の練習時にも使用】</p>	

場 面	生活面	味覚の過敏さに対する対応
<p>合理的配慮の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食べることができない食べ物を除去するための取り分け皿を準備する。</li> </ul>		
<div data-bbox="240 1503 625 1812">  </div> <div data-bbox="220 1818 421 1980">  </div> <p data-bbox="236 1989 608 2022">【苦手な食材を除去する児童】</p>	<p data-bbox="667 1491 1445 1659">対象児童は、味覚の過敏さがあるため、食べられる物と食べられない物がある。情緒が安定しているときは、苦手な物も食べることがあるが、不安定なると味覚が敏感になり、食べられない物が増える。</p> <p data-bbox="667 1671 1445 1839">そこで、自分で食べられない物を除去することができるように、特別支援学級の担任が除去用の皿を準備するようにした。そして、交流学級担任と苦手な食べ物の除去の仕方等の共通理解をした。</p> <p data-bbox="667 1850 1445 1973">その結果、対象児童は、除去用の皿があることで、苦手な食材を無理して食べなくてよいことが分かり、交流学級で安心して食事ができるようになった。</p>	

場 面	生活面	学校生活への見通しを持つ
合理的配慮の内容		
・ 1日のスケジュールや月間、学期間のスケジュールを提示する。		
		<p>対象児童は、生活や活動に見通しが持てないと不安を感じやすいことが保育所の引継ぎ内容にあった。</p> <p>そこで、入学前にその日の活動内容を示すボードを学校で作成した。</p> <p>入学後は、毎朝、特別支援学級担任と一緒にその日の活動内容をカードを貼りながら確認するようにした。少しずつ慣れていき、自分で予定表を見ながらボードのカードを貼り替えて1日の流れを確認することができるようになった。</p> <p>また、1日だけでなく、夏季休業や学期制についての、学校生活の流れについても不安を感じる様子が見られたため、月ごとや年間のカレンダーを準備して一つ一つ説明するようにした。</p> <p>その結果、1か月以上先の行事にも関心を示したり、長期休業について教師に質問をしたり等、見通しを持って過ごすことができるようになった。</p>
【1日の活動内容や月間、学期間の予定を提示した確認ボード】		

場 面	生活面	休み時間の過ごし方
合理的配慮の内容		
・ 休み時間にしなければならない活動と、できる（できない）活動をイラストで掲示する。		
		<p>対象児童は、休み時間をどのように過ごせばよいのかイメージを持つことができず、落ち着かない様子で過ごしていることが多い。</p> <p>そこで、特別支援学級担任が対象児童と話し合いながら、休み時間にしなければならない活動（ピンクの枠）とできる活動（青の枠）、できない活動（枠なし）を整理して教室の出入口に掲示するようにした。</p> <p>その結果、遊びたいことが休み時間にできるのかどうかを事前に知ることができ、安心して休み時間に入ることができるようになった。また、外遊び以外にどのような過ごし方があるのかを知ることにもつながり、過ごし方が広がった。徐々に、自分のその日の状態に合わせて、したい遊びを選ぶことができるようになってきた。</p>
【休み時間の過ごし方を掲示】		

## C(見直し)シート

## 見直し

## 検 討

【時 期】 11月

【参加者】 特別支援学級担任、交流学級担任

【内 容】 2学期までの特別支援学級での活動の様子や、交流学級での合理的配慮の成果と課題等について話し合った。

## 成果と課題

- 具体物や写真、イラストなどを用いて活動の内容や順番を事前に知らせるようにした。その結果、授業や学校行事等に落ち着いて参加することができるようになってきた。
- 特別支援学級担任や特別支援教育支援員がそばにいて、指示の補足をしたり作業の手伝いをしたりした。その結果、対象児童は、最後まで学習に参加できるようになってきた。
- 家庭での学習では、落ち着いて取り組むことが難しいことがあった。取り組む内容や時間について保護者と一緒に考える必要がある。

## 合理的配慮の変更点

これまでの合理的配慮は今後も継続する。以下の点について見直した。

- ・交流学級や家庭で、居心地よく過ごす時間が少しでも増えるように、学習内容や学習形態、家庭での学習の取り組み方を工夫する。

## 合意形成

【時 期】 12月

【参加者】 保護者、校長、特別支援学級担任、交流学級担任

【内 容】 2学期までの活動の様子や、合理的配慮の成果と課題について話し合った。その後、3学期に行う合理的配慮の確認を行った。



A(引継ぎ)シート

引継ぎ

【時 期】 4月 職員会議後

【参加者】 (新・旧) 特別支援学級担任、(新・旧) 交流学級担任

【方 法】 個別の教育支援計画及び個別の指導計画を基に、下記の引継ぎ内容について話し合いを持つ予定である。全職員には、職員会議で、対象児童についての説明を行い、共通理解を図る予定である。

【内 容】 ・具体物や写真、イラストなどを用いて活動の内容や順番を示す。

・児童の様子を見ながら、活動時間や内容、学習形態を調整する。

・特別支援学級を適宜利用できるように交流学級の座席は、後ろの入口付近に設ける。

・特別支援学級担任か特別支援教育支援員がそばにいて、指示の補足をしたり、作業の手伝いをしたりする。

・疲れたときや情緒が不安定になったときに、休憩できる場所を確保する。

## 成果と課題

### 成 果

#### ○保護者、保育所の担任と連携した合理的配慮の提供

保護者や保育所の担任と連絡や面談を随時行い、合理的配慮を決定した。その結果、対象児童や保護者、保育所の担任との信頼関係を築くことができ、保護者等と連携しながら必要な支援を提供することができた。また、その後も連絡や面談を続けたことで、支援内容や方法を柔軟に変更・調整することもできた。

#### ○安心して学校生活を送ることができるようにするための合理的配慮の提供

新1年生である対象児童は、これまでの保育所とは生活が一変したため、4月当初は大きな声を出すなど、不安定な様子が多く見られた。そこで、1日のスケジュールや月間、学期間のスケジュールを提示し、活動内容等を確認する場を設定した。その結果、対象児童は、自分からスケジュールが提示されているボードを確認したり、1ヶ月以上先の行事に関心を示したりなど見通しを持って落ち着いて学校生活を過ごすことができるようになった。

### 課 題

○学校では、対象児童の様子を見ながら、活動に取り組む時間や内容を調整し、課題に取り組ませている。今後も、安心して学校生活を送れるように、保護者と連携を図っていきたい。また、対象児童が様々な行事や活動などに多く参加できるような合理的配慮を検討し、提供していきたい。

## 平成29年度 個別の教育支援計画

記入者名：〇〇 〇〇 記入日：平成29年5月〇日

〇〇小学校 〇〇学級（1年 〇組）		校長名	〇〇 〇〇	担任名	〇〇 〇〇
ふりがな 氏名	〇〇 〇〇（男・女）	生年月日	平成〇年〇月〇日		
保護者名	〇〇 〇〇	家族構成	〇 〇 〇 〇		
住所：〒 〇〇〇-〇〇〇〇 〇〇市〇〇町〇〇		TEL（ 〇〇〇〇-〇〇-〇〇〇〇 ）			
緊急連絡先（ - - ）					
現在の生活、将来の生活についての願い					
本人の願い	・みんなと楽しく過ごしたい。 ・疲れたときに休憩する場所が欲しい。		保護者の願い	・本人のペースで過ごしてほしい。 ・友達と仲良くしてほしい。	
本人の状況（学習面、集団参加・社会性、対人関係・コミュニケーション、他）					
学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>平仮名はおおむね読むことができる。書くときは、すぐに文字を想起することが難しいことがある。</li> <li>はさみで線に沿って切るとは難しい。色を塗ったり工作したりすることは好きである。</li> <li>長い時間（15分以上）同じ学習をすることは難しい。</li> <li>着替えや排泄などの身辺処理は、ほとんど一人でできる。</li> <li>全ての活動に全力で取り組むため疲れやすい。</li> </ul>				
家庭	・自分が想定していないことがあると、不安定な様子が見られる。				
地域・関係機関	・自閉スペクトラム症、注意欠陥多動症の診断を受けている。				
支援の目標	・学校生活に見通しを持たせ、安心して過ごせるようにする。				
主な支援内容				支援者	
学 校	学級	・学校生活に慣れ、楽しく活動することができるように、個別指導の時間を確保し、 <u>カードなどを利用して、見通しを持たせる。</u>			特別支援学級担任 交流学級担任 特別支援教育支援員
	校内	・学校行事などでは、無理なく参加することができるように関係職員と情報を共有しておく。 ・全職員で児童についての共通理解を図る。			全職員
家庭	・連絡帳を利用して、毎日学校での様子を知らせる。 ・家庭での様子を毎日知らせる。			保護者	
地域					
関係機関 医療、福祉、 盲・ろう・ 養護学校 等	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的に受診し、投薬する。</li> <li>定期的に療育や訓練をする。</li> </ul>			〇〇病院 主治医 〇〇センター 担当者	
評価 及び 引継ぎ事項					

## 【合理的配慮シート】

〇〇 小学校 1年 組 氏名 〇〇 〇〇

## 長期目標

- ・活動内容を理解し、安心して学校生活を送ることができる。

提供する合理的配慮	評価
・具体物や写真、イラストなどを用いて活動の内容や順番を示す。	継続
・活動に取り組む時間や内容を調整する。 児童の様子を見ながら、活動時間や内容、学習形態を調整する。	変更
・特別支援学級を適宜利用できるように交流学級の座席は、後ろの入り口付近に設ける。	継続
・特別支援学級担任か特別支援教育支援員がそばにいて、指示の補足をしたり、作業の手伝いをしたりする。	継続
・疲れたときや情緒が不安定になったときに、休憩できる場所を確保する。	継続

## 【提供する合理的配慮を決定した日】

H29 年 4 月 〇日 児童生徒名 〇〇 〇〇 保護者名 〇〇 〇〇

担任名 〇〇 〇〇 学校長名 〇〇 〇〇

次回検討予定日 H29 年 11 月 〇日